

## PICK UP

# でちこんかの始まり

鬼北町最大のイベントであるでちこんか。残念ながら今年のでちこんかは、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止となりました。今年27年目を迎えたでちこんかは、今年を除き中止となったのは過去に2回。いずれも台風の影響によるものでした。それでもどちらも前夜祭だけは開催することができていました。でちこんかがない今年の鬼北の秋だからこそ、その始まりについて少しだけ振り返ってみましょう。

## でちこんかの始まり

第1回のでちこんかは、平成6年11月5日、6日に開催されました。今では毎年10月に開催されるでちこんかですが、11月に開催されたのは、最初で最後のこと。開催されたのは鬼北町が誕生する前の広見町のときで、正式名称は「緑と清流の町ひろみDECHI・CONCA」でした。

地域活性化の土壌づくりと広見らしさの確立を目指し、「生涯学習宣言の町」にふさわしいイベントとして、さらに、平成6年度が広見町合併40周年にあたることから、記念行事の1つとして開催。以前から行われていたイベントである「ひろみふるさとふれ愛まつり」をスケールアップさせたもので、「であい、ふれあい、まなびあい」を基本コンセプトとして掲げ、当時は、遺跡遺物展や川柳大会なども行われていました。



▲第1回でちこんかの様子  
(上) ステージでのライブコンサート  
(下) 近永小学校トランペット鼓隊



▲第1回鬼のお太鼓コンテストの様子

## 鬼のお太鼓コンテスト

平成28年からは「鬼のお太鼓コンテスト」を開催。

このコンテストは、「えひめいやしの南予博2016」の開催に合わせて行われたものです。

コンテストでは、でちこんかの前夜祭の出場を懸け、学生の部と一般の部に分かれて、迫力ある太鼓の演奏を競い合います。今では、でちこんかを盛り上げるためになくてはならないものになっています。

## 来年のでちこんかに向けて

「みんなが楽しめるイベントにしたい。」でちこんかでは、住民、企業、行政、大人も子どももみんなが参加し、協力し合いながら27年の歴史を刻んできました。そこで生まれた連携や出会いは、目には見えなくても「地域力」となって、鬼北町を支えています。

新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見えない厳しい状況が続きますが、でちこんかが育んできた「地域力」を活かし、地域一体となってこの難局を乗り越えましょう。そして、来年こそは、「でちこんか2021」が盛大に開催されることを願います。